

資料1 利活用方策のアイデア募集 とりまとめ結果の報告

1. アイデア募集およびヒアリング 実施概要

IC自動車検査証の利活用方策のアイデア募集

- IC自動車検査証の利活用方策の検討にあたり、幅広い関係者の方々からの意見を参考とするため、公募および関係者の方々へのヒアリングを実施し、利活用方策のアイデアを募集。

【スケジュール】

7月	8月	9月以降
		
		
		

- 公募とヒアリングにより頂いたアイデアの総数は374件です。
 - 公募の応募者数は65者、アイデア件数は180件
(その他利活用方策以外のアイデア含むと247件)
 - ヒアリングの団体数は19者、アイデア件数は194件
(その他利活用方策以外のアイデア含むと243件)

	応募数・ヒアリング者数	アイデアの件数 (その他利活用方策以外のアイデア含む)
アイデアの 総数		374件 (その他利活用方策以外のアイデア含むと490件)
公募による アイデア募集	応募者数 65者 (<ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業者からの応募37者 ➢ 個人からの応募28者)	180件 (その他利活用方策以外のアイデア含むと247件)
ヒアリングによる アイデア募集	ヒアリング団体数 19者	194件 (その他利活用方策以外のアイデア含むと243件)

- 公募による募集と並行して、以下の関係事業者及び団体の方々にヒアリングを実施。

ヒアリング先	
自動車販売	カー用品販売店
車検・整備	保険
運送事業	駐車場（カーシェア）
リース事業	その他

※順不同

2. アイデアの整理

アイデア整理の方針

- 公募及びヒアリングで取得したアイデアは以下のステップで整理し、IC自動車検査証の空き領域等の利活用方策について検討を行う。



多様なアイデアニーズに基づくユースケースを分析する観点として、IC自動車検査証の空き領域の利活用事務に求められる要件（案）を設定

公募及びヒアリングで取得したアイデアで用いる情報について定量的に整理

代表的なユースケースを抽出

ユースケースを用いて、アイデア実現のため、制度面・技術面・運用面における検討事項を、定性的に考察

ユースケースを分析し、制度面・技術面・運用面の視点から検討事項を整理。ICチップ利活用方策案の検討につなげる

- 多様なアイデアニーズに基づくユースケースを分析する観点として、IC自動車検査証の空き領域の利活用事務に求められる要件（案）を設定。

1 目的（アイデアの趣旨）

- 政策・経営課題の解決に資すること
（例：ユーザーの利便性の向上、安全性の向上、政策の実効性向上、業務の効率化）
- 自動車検査証との親和性（非代替性）
- 従来の仕組みでは実現困難又は非効率であること
- 十分に利用される見込みがあること 等

2 仕組み

2-1 制度面

- 現行法制度との整合性
- アプリの搭載・消去に関する権限管理
- IC自動車検査証に記録された情報の適切な取り扱い（特に、個人情報を含む場合） 等

2-2 技術面

- IC自動車検査証の空き容量の有限性
- セキュリティ確保（自動車検査証記録情報の改ざん防止等）
- IC自動車検査証に記録された情報の真正性の担保措置
- アプリの開発において準拠するべきルール 等

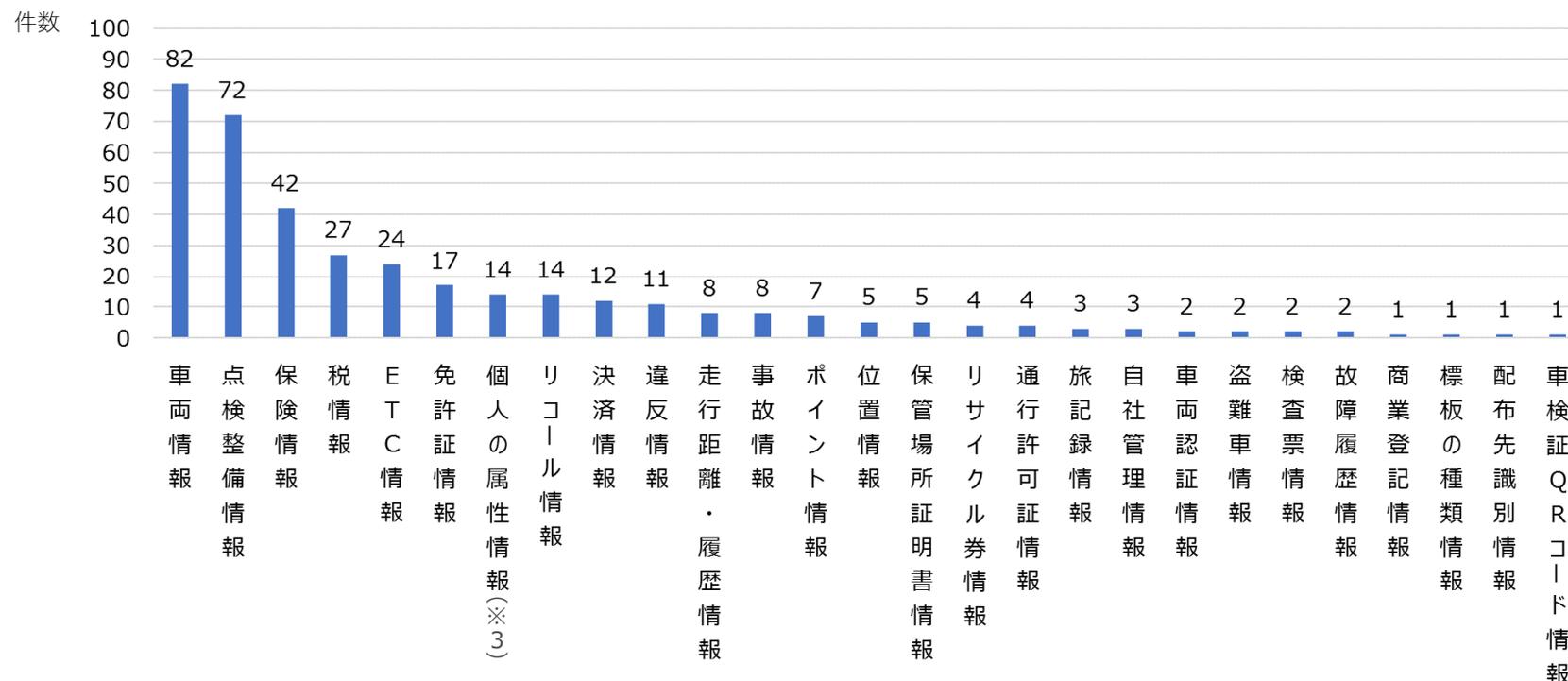
2-3 運用面

- 国による管理コストの抑制
- 運営主体の安定性
- 利活用事務の継続性 等

アイデアニーズの定量化

- 公募及びヒアリングで取得した空き領域の利活用に関するアイデアで用いる情報（※1）について、定量的に整理。
- アイデアで用いる情報としては車両情報（※2）が最も多く、次いで点検・整備情報、自賠責等の保険情報、税納付状況等の税情報と続く。

アイデアで用いられる情報



※1 自動車検査証情報についてはフェーズ1で検討していることから、今回の空き領域利活用に関するアイデアニーズの集計には含んでない。別添のアイデアリスト一覧には掲載している。

※2 ここでは、購入情報、ASV情報、取扱説明書、機種記号、車体色、本体価格情報等のことを示す。

※3 ここでは、血液型・持病などの情報のことを示す。

アイデアのユースケース抽出

- 代表的なユースケースを用いて、ユースケース毎にIC自動車検査証の空き領域の利活用事務に求められる要件に沿って考察する。

	用いる情報	利活用アイデアの例示
1	車両情報	車両のモデルグレード名・取扱説明書・車台番号の打刻位置などを格納すれば、点検整備での車両情報確認や2次流通での中古車販売事業者からメーカーへの問い合わせの負担軽減になる。
2	点検整備情報	整備情報をデータとしてIC自動車検査証に格納することにより、整備事業者にとって点検整備の際、整備情報の管理が容易となり、点検整備の効率化が図られるほか、自動車ユーザーにとっても整備履歴の管理が容易となり、点検整備の励行促進につながる。さらに、過去の整備履歴を参考にすることが可能となるため、中古車の適切な査定につながる。
3	保険情報	自賠責保険情報をIC自動車検査証に格納する。
4	ポイント情報	IC自動車検査証を、車両に関連する事業者（ディーラー、ガソリンスタンド、JAF）の会員証や会員向けポイントカードシステムの代わりとして活用する。
5	旅記録情報	旅行先での記念スタンプのように、走行到着記念歴、北海道網走や知床半島走行到達歴の記録など、車の旅記録があると面白い。また、旅行先において旅記録が更新された場合に、当該地域で使える割引ポイントが付与される等、旅行者にインセンティブを与えられるような仕組みにする（地域の活性化や旅行動向に関するビッグデータの収集にも寄与）。
その他	免許証情報	IC自動車検査証（諸元情報）と免許証情報を組み合わせることで、運行予定の車両に対する資格の確認を確実かつ効率的に行える。

※他にも同じ情報を用いて、多くのアイデアを頂きましたが、ユースケースとして各情報から1つのユースケースを抽出しています。

3. アイデアのユースケースからの考察

ユースケース①：車両情報を格納した利活用

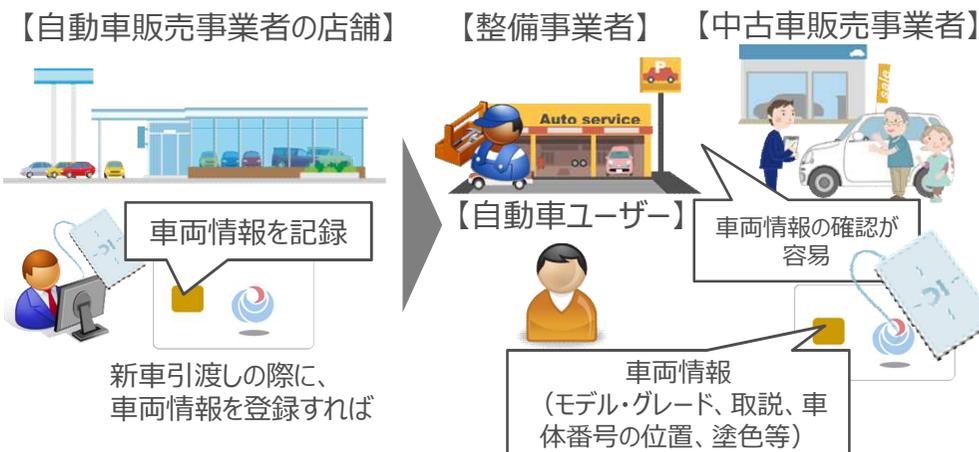
用いる情報

利活用方策のアイデア

車両情報

車両のモデルグレード名・取扱説明書・車台番号の打刻位置などを格納すれば、点検整備での車両情報確認や2次流通での中古車販売事業者からメーカーへの問い合わせ等の負担軽減になる。

項目	アイデアから想定される状況
アプリの搭載者	<ul style="list-style-type: none"> 自動車販売事業者
情報の記録機会	<ul style="list-style-type: none"> 新車登録時に記録、以後更新なし
情報の記録者	<ul style="list-style-type: none"> 自動車販売事業者
IC自動車検査証に持たせる機能	<ul style="list-style-type: none"> 車両情報の記録、閲覧
情報の閲覧者	<ul style="list-style-type: none"> 自動車販売事業者 点検整備事業者 2次流通に関わる事業者 自動車ユーザー
必要な端末やシステム	<ul style="list-style-type: none"> ICカードリーダー/ライタ 記録、閲覧用アプリ
活用が想定されるシステム	<ul style="list-style-type: none"> 車両情報が記録された、各自動車販売事業者の業務システム
自動車検査登録手続きとの関係	<ul style="list-style-type: none"> 自動車検査登録手続きにおいて必要な情報は含まれない
個人情報の取り扱い有無	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報は含まれない
関連する法制度の有無	<ul style="list-style-type: none"> —



検討事項 (案)

1 目的 (アイデアの趣旨)

- ・自動車ユーザーの利便性の向上・自動車関連産業の業務効率化につながる。
- ・整備・2次流通関連産業に携わる事業者数が多く、潜在的なニーズが見込まれる。

2 仕組み

○制度面

- ・アプリの搭載者、情報の記録者及び情報の閲覧者を限定し、管理する仕組みが必要か。

○技術面

- ・情報のデータ量はどの程度を見込むか。
- ・自動車販売事業者毎に情報の記載ルールが異なるのではないか。
- ・記録された情報の真正性を確認する仕組みが必要か。

○運用面

- ・変更登録等で自動車検査証が新たに交付された際、情報を引き継ぐ仕組みが必要か。

ユースケース②：点検整備情報を格納した利活用

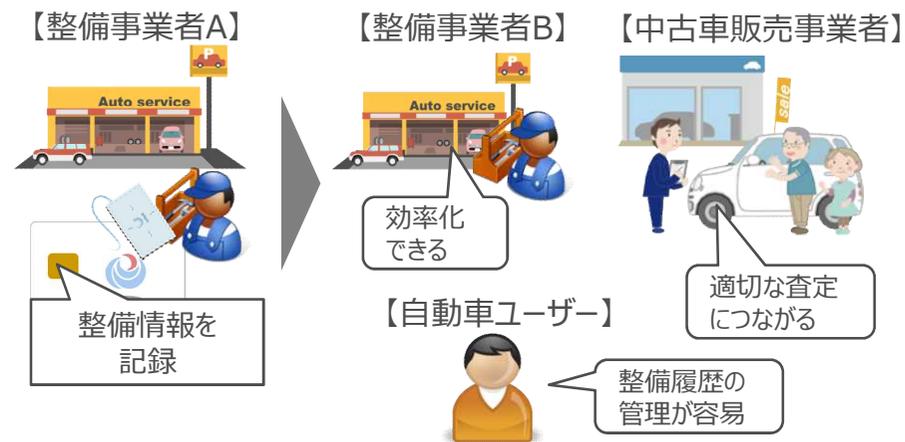
用いる情報

利活用方策のアイデア

点検整備情報

整備情報をデータとしてIC自動車検査証に格納することにより、整備事業者にとって点検整備の際、整備情報の管理が容易となり、点検整備の効率化が図られるほか、自動車ユーザーにとっても整備履歴の管理が容易となり、点検整備の励行促進につながる。さらに、過去の整備履歴を参考にすることが可能となるため、中古車の適切な査定につながる。

項目	アイデアから想定される状況
アプリの搭載者	<ul style="list-style-type: none"> 整備事業者
情報の記録機会	<ul style="list-style-type: none"> 整備実施時
情報の記録者	<ul style="list-style-type: none"> 整備事業者
IC自動車検査証に持たせる機能	<ul style="list-style-type: none"> 整備情報の記録・閲覧・追記
情報の閲覧者	<ul style="list-style-type: none"> 整備事業者 自動車ユーザー 2次流通に関わる事業者
必要な端末やシステム	<ul style="list-style-type: none"> ICカードリーダー/ライタ 記録、閲覧用アプリ
活用が想定されるシステム	<ul style="list-style-type: none"> 整備情報が記録された業務システム
自動車検査登録手続きとの関係	<ul style="list-style-type: none"> 自動車検査登録手続きにおいて必要な情報は含まれない
個人情報の取り扱い有無	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報を含まないことも可能
関連する法制度の有無	<ul style="list-style-type: none"> —



検討事項（案）

1 目的（アイデアの趣旨）

- 自動車関連産業の業務効率化につながる。
- 整備・2次流通関連産業に携わる事業者数が多く潜在的なニーズが見込まれるとともに、自動車ユーザーによる点検整備の励行促進につながる。

2 仕組み

○制度面

- アプリの搭載者、情報の記録者及び情報の閲覧者を限定し、管理する仕組みが必要か。

○技術面

- 情報のデータ量はどの程度を見込むか。
- 記録された情報の真正性が担保される仕組みが必要か。

○運用面

- 変更登録等で自動車検査証が新たに交付された際、情報を引き継ぐ仕組みが必要か。
- 情報の記録主体となる点検整備事業者が複数存在することから、多数の事業者が共通で活用できる仕組みが必要とならないか。

ユースケース③：保険情報を格納した利活用

用いる情報

利活用方策のアイデア

保険情報

自賠責保険情報をIC自動車検査証に格納する。

項目	アイデアから想定される状況
アプリの搭載者	<ul style="list-style-type: none"> 損害保険会社
情報の記録機会	<ul style="list-style-type: none"> 新規加入時ならびに更新時と変更時
情報の記録者	<ul style="list-style-type: none"> 損害保険会社の代理店
IC自動車検査証に持たせる機能	<ul style="list-style-type: none"> 証明書番号等の自賠責保険情報を記録
情報の閲覧者	<ul style="list-style-type: none"> 自動車ユーザー 損害保険会社 警察（事故時）
必要な端末やシステム	<ul style="list-style-type: none"> ICカードリーダ/ライタ 記録、閲覧用アプリ
活用が想定されるシステム	<ul style="list-style-type: none"> 自賠責保険情報が記録された、損害保険会社の業務システム
自動車検査登録手続きとの関係	<ul style="list-style-type: none"> 自動車検査登録手続きにおいて必要な情報が含まれる
個人情報の取り扱い有無	<ul style="list-style-type: none"> 自賠責保険の加入者情報
関連する法制度の有無	<ul style="list-style-type: none"> 自動車損害賠償保障法 保険法

【損保保険会社の代理店】

【警察】

【自動車ユーザー】


 保険情報を記録
（自賠責保険）


IC自動車検査証と自賠責保険証明書を一体的に管理できる！

検討事項（案）

1 目的（アイデアの趣旨）

- ・自動車ユーザーの利便性の向上・自動車関連産業の業務効率化につながる。
- ・自賠責保険に関わる事業者数が多く潜在的なニーズが見込まれるとともに、すべての自動車ユーザーが裨益する。

2 仕組み

○制度面

- ・アプリの搭載者、情報の記録者及び情報の閲覧者を限定し、管理する仕組みが必要か。
- ・制度を見直すのであれば、現行の制度趣旨を踏まえる必要があるか。

○技術面

- ・事故現場などにおいて、事故当事者等が自賠責保険情報を容易に確認できる仕組みが必要ではないか。
- ・自賠責保険情報は携行義務があるため、オフライン環境でも参照可能である必要があるのではないか。
- ・情報のデータ量はどの程度を見込むか。
- ・記録された情報の真正性が担保される仕組みが必要か。

○運用面

- ・自賠責保険の情報更新時に、証明書情報の再記録が必要か。
- ・すべての自賠責保険証が電子化されているわけではないため、紙との並行運用が必要となり、事務が複雑化し、経費の増加を招くのではないか。

ユースケース④：ポイント情報を格納した利活用

用いる情報

利活用方策のアイデア

ポイント情報

IC自動車検査証を、車両に関連する事業者（ディーラー、ガソリンスタンド、JAF）の会員証や会員向けポイントカードシステムの代わりとして活用する。

項目	アイデアから想定される状況
アプリの搭載者	<ul style="list-style-type: none"> 会員ポイントの提供事業者
情報の記録機会	<ul style="list-style-type: none"> ポイント付与、利用の際
情報の記録者	<ul style="list-style-type: none"> 会員ポイントの提供事業者
IC自動車検査証に持たせる機能	<ul style="list-style-type: none"> 会員ID等の記録機能
情報の閲覧者	<ul style="list-style-type: none"> 会員（自動車ユーザー） ポイント付与・利用する店舗等
必要な端末やシステム	<ul style="list-style-type: none"> ICカードリーダ/ライタ 記録、閲覧用アプリ
活用が想定されるシステム	<ul style="list-style-type: none"> 会員ポイントサービスを提供する業務システム
自動車検査登録手続きとの関係	<ul style="list-style-type: none"> 自動車検査登録手続きにおいて必要な情報は含まれない
個人情報の取り扱い有無	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報は含まれない
関連する法制度の有無	<ul style="list-style-type: none"> —

【会員ポイントの提供事業者】



複数の車関係のポイントカードを1枚で管理！



車に携行しているから、財布に入れ忘れの心配無し！

検討事項（案）

1 目的（アイデアの趣旨）

- ・自動車関連産業のサービス向上につながる。
- ・ポイント制度を利用する自動車関連事業者数は多く、潜在的なニーズが見込まれる。

2 仕組み

○制度面

- ・アプリの搭載者、情報の記録者及び情報の閲覧者を限定し、管理する仕組みが必要か。
- ・会員認証は会員IDのみとし、個人情報は記録しない仕組みとするのがいいのではないか。

○技術面

- ・情報のデータ量はどの程度を見込むか。

○運用面

- ・変更登録等で自動車検査証が新たに交付された際、情報を引き継ぐ仕組みが必要か。

ユースケース⑤：旅情報を格納した利活用

用いる情報

利活用方策のアイデア

旅記録情報

旅行先での記念スタンプのように、走行到着記念歴、北海道網走や知床半島走行到達歴の記録など、車の旅記録があると面白い。また、旅行先において旅記録が更新された場合に、当該地域で使える割引ポイントが付与される等、旅行者にインセンティブを与えられるような仕組みにする（地域の活性化や旅行動向に関するビッグデータの収集にも寄与）。

項目	アイデアから想定される状況
アプリの搭載者	<ul style="list-style-type: none"> 旅記録サービスの提供者（旅行会社）等
情報の記録機会	<ul style="list-style-type: none"> 旅記録の更新場所に到着したとき
情報の記録者	<ul style="list-style-type: none"> 旅記録の協力店舗（道の駅）等
IC自動車検査証に持たせる機能	<ul style="list-style-type: none"> 旅記録を管理可能とする情報の記録
情報の閲覧者	<ul style="list-style-type: none"> 自動車ユーザー 旅記録サービスの提供者（旅行会社）等
必要な端末やシステム	<ul style="list-style-type: none"> ICカードリーダー/ライター 記録、閲覧用アプリ
活用が想定されるシステム	<ul style="list-style-type: none"> 旅記録サービスを提供する業務システム
自動車検査登録手続きとの関係	<ul style="list-style-type: none"> 自動車検査登録手続きにおいて必要な情報は含まれない
個人情報の取り扱い有無	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報は含まれない
関連する法制度の有無	<ul style="list-style-type: none"> —

【旅記録の協力店舗（道の駅）等】



旅情報を記録

旅記録を管理できる仕組みを自動車検査証に入れて、旅情報を記録



車両が全国どこに行ったか旅の記録が残る！

検討事項（案）

1 目的（アイデアの趣旨）

- ・地域振興・観光振興につながる。
- ・スタンプラリー等、他業種で成功している事例もあり、一定のニーズを見込めるのではないか。
- ・他の仕組み（スマホ等）で実現可能ではないか。

2 仕組み

○制度面

- ・アプリの搭載者、情報の記録者及び情報の閲覧者を限定し、管理する仕組みが必要か。

○技術面

- ・情報のデータ量はどの程度を見込むか。
- ・記念スタンプ等の旅記録を蓄積・閲覧できる仕組みを準備する必要があるのではないか。

○運用面

- ・変更登録等で自動車検査証が新たに交付された際、情報を引き継ぐ仕組みが必要か。

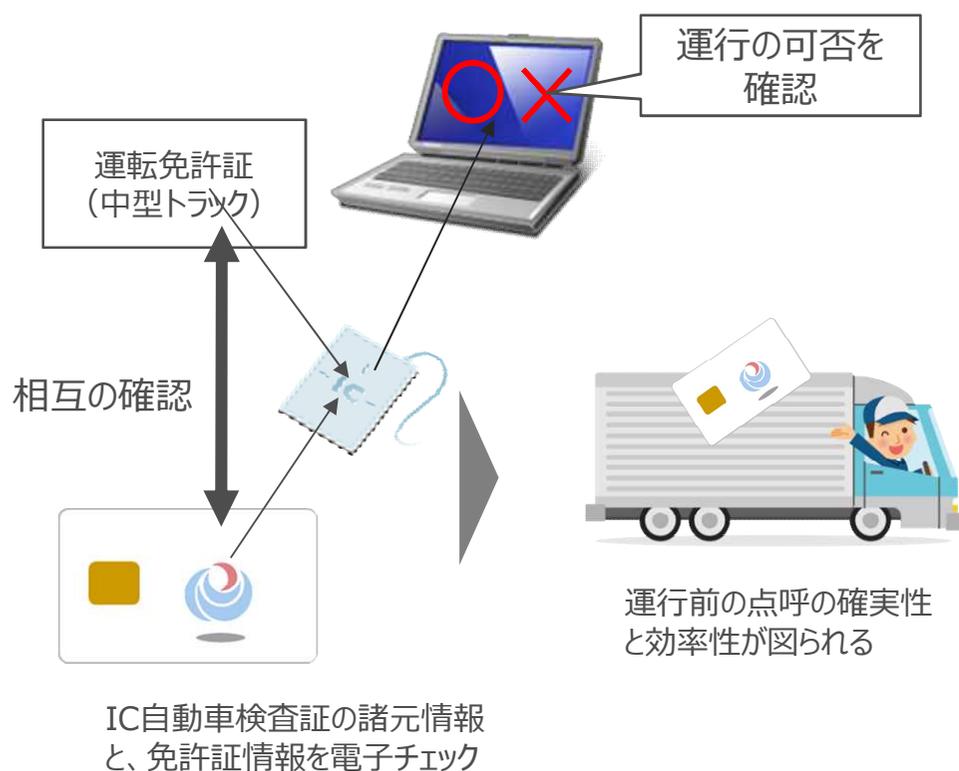
その他：免許証情報と連携した利活用

用いる情報

利活用方策のアイデア

自動車検査証情報
と免許証情報

IC自動車検査証（諸元情報）と免許証情報を組み合わせることで、運行予定の車両に対する資格の確認を確実にかつ効率的に行える。



検討事項（案）

1 目的（アイデアの趣旨）

- ・運送事業者をはじめとした自動車ユーザーの業務効率化及び利便性の向上につながる。
- ・免許資格と車両のマッチングのミスが軽減され、安心安全の確保につながる。
- ・運送事業に関わる事業者数は多く、潜在的なニーズが見込めるとともに、事故の減少を通じ社会全体が裨益する。

2 仕組み

○制度面

- ・現行の法制度で、免許証情報を読み出し、IC自動車検査証情報と連携させることは可能か。また、制約はあるか。

○技術面

- ・車両の諸元と免許証情報を組み合わせるシステムの構築等が必要か。
- ・アクセスできる情報を限定する等、セキュリティの確保が必要か。

○運用面

- ・限定車検査証等の「限定的に運行可能な条件・状態」の場合は、IC自動車検査証がないため、活用できないケースがあるのではないか。